

避難集中戸・施設訪問で歯科ニーズの増を実感

4月6日から7日に東京：大田歯科が松島を拠点に地域訪問、11日から大阪：耳原・大正わかば・田島歯科の2グループが古川・松島を拠点に地域訪問を行ないました。

大田歯科のグループは、石巻方面の保育園・高校・お寺・小学校を訪問、入れ歯の調整、義歯製作・修理、小児の咬み合わせ調整、口腔ケアを実施しました。避難生活が長期化するにつれて、歯科へのニーズも増えていると医科関係の医療班から要望も聞くことができました。

大阪の古川拠点グループは11日に、鹿島台・敬風園で東松島の施設から避難して来られた方々の口腔ケアを実施、利用者のみなさんは文字通り「着の身着のまま」で救出され敬風園へ、その中の1人が松島歯科の患者さんだったことが判明、連携を取り施設へ情報提供を行ないました。



前方中央が大田歯科・吉田先生



東松島から避難してきた方の口腔ケア

手が届かない避難集中戸がある、いつでも歓迎します

12日は、南三陸町志津川を再び訪問、前回訪問時に津波で入れ歯を流された方のその後の経過を聞き取り、志津川病院歯科の再開を待って作製にあたることを聞き一安心。志津川病院歯科の先生とも面談、「避難所生活が長期化して体力が低下し肺炎に陥る危険性があり、口腔ケアの重要性が増している。しかし、我々の手が届かない避難所がある。支援はいつでも歓迎します。」と話しておられました。

訪問した避難所では、つめものの再装着、入れ歯が割れてアロンアルファで応急処置をした後の修理、差し歯が取れた方の再装着などを行ないました。



中央が耳原歯科・重松先生



入れ歯修理中の耳原歯科・阪井技工士